

道南ディスタンス第 1 戦

【出場結果】

実施日 : 6月2日(日) 5000m
会場 : 函館市・千代台公園陸上競技場
出場者 : 親崎 達朗 坪井 響己
出場種目・出場者・リザルト

氏名	親 崎	坪 井
種目	5000m	5000m
タイム	14'50"30	14'39"35
順位	25/27	23/27

【レポート】

6月に入り、本州では梅雨入り前の蒸し暑さを感じる日々が続き、長距離ランナーとしては、記録が出にくい時期となってきました。

そのような中、初の試みとして、5000m13分台の記録を狙う実業団・大学選手の出場により、道南ディスタンス第1戦が北海道函館市で開催され、当社からは親崎、坪井の2名が13分台の自己ベスト更新を目指してレースに臨みました。

スタート時の気温は14度で微風という、この時期の関東地方では考えられない絶好のコンディションの中、レースはスタートしました。



5000m13分台を目指して集中力を高める親崎と坪井

レースは2名の外国人選手がペースメーカーとして、それぞれ5000m13分45秒と13分59秒のペースで引っ張り、集団が大きく2つに分かれる中、親崎と坪井の2名は13分59秒の後方集団でレースを進めました。



第2集団の前方で積極的なレースを見せる坪井

レース序盤、坪井は第2集団を引っ張る外国人選手の後ろに付き、親崎は集団の後方でレースを進めましたが、2000m手前で親崎がハイペースに付けず離れだすと、坪井も3000m手前で表情が厳しくなり徐々に集団から離れ、3000m以降は2名とも単独走でレースを進めることとなりました。

13分台を狙い、序盤にハイペースでラップを刻んだ分、ペースの落ち込みは顕著となり、坪井は14分39秒台、親崎は14分50秒台のゴール、目標に遠く及ばない悔しい結果となりました。



3000m以降はラップも落ち込み苦しい走りとなった坪井



序盤からハイペースに対応出来ず悔しい走りとなった親崎

【総括】

13分台を狙うレースで、親崎、坪井ともに本来の力を発揮することが出来ず、非常に悔しさが残る結果となりました。

記録を狙ってハイペースを刻んだ分、集団から離れると厳しい走りになることは事前に分かっていたことですが、二人とも今季ワーストに近いタイムとなり、あらためて記録を狙う難しさを痛感しました。

次のレースはチーム目標の一つに掲げている男鹿駅伝となりますが、チームの中心選手として、親崎、坪井が今回の経験を糧として、駅伝で奮起してくれることに期待したいと思います。

引き続きまして、皆さまの温かいご声援をよろしくお願いいたします。

以上